

そして、この「ならまち界限」は、実は元興寺が隆盛を極めた頃の境内だそうで、奈良町資料館から庚申堂を巡り、「元興寺 塔跡」方向に行く道筋が、丁度、金堂があった場所とのこと。

帰宅後、ネットで調べて、現在の界限の地図と重ねると、歩いた道は、確かに、元興寺金堂の周囲を巡る道になっていた。

館長さんが、「是非、塔跡を見てください」とおっしゃって下さったので、全員で、大塔院の塔跡へ。

元興寺が広大な敷地を持っていて、立派な建造物があったことが窺われる塔跡でした。



🍷🍷🍷 奈良町資料館前で、皆で写真 第1弾!! 🍷🍷🍷

ハイッ、チーズ 😊



ちなみに、この写真、平越様が通りすがりの方にお声をかけられ、通りすがりの方が撮影してくださいました 🙌

⑧璉城寺（紀寺）

元興寺塔跡の後は、西紀寺町の璉城寺へ。

御門をくぐって中に入ると、茉莉花があちらこちらに咲いていました。

盛りはちょっと過ぎていたものの、花に顔を近づけると、まだ少し香しい匂いが・・・。

平越様曰く、下見で来られた際は、御門をくぐった途端、匂い立つように香りがしたそう。

ご住職をはじめ、お寺の方々に迎え入れられて、人数の関係で、まず半分が先に拝観し、本堂でご説明を聞かせていただけることに。

ご本尊の阿弥陀如来様は、めずらしい女身の裸形をあらわしており、お袴を着装しておられる。

ご本尊は、平素は秘仏とされており、このお袴を50年に一度のお取替えの際に御開扉されていたところ、現在では、そのことに因んで、毎年5月に御開扉され、一般拝観ができるそう。

このような貴重な機会に拝観することができて、感謝を込めて、頭を垂れ、無心で合掌。

拝観後は、後半の方々と入れ替わり、庫裏に移動。

